

Japanese Society for Day Care Treatment
日本デイケア学会

NEWS No. 17

日本デイケア学会広報委員会
2008年7月2日 発行
日本デイケア学会事務局
東京都文京区本郷2-25-14 第1ライトビル3F
(有) エム・シー・ミュージズ内
TEL: 03-3813-6368
FAX: 03-3813-6368
E-mail: info@daycare.gr.jp
http://www.daycare.gr.jp

**デイケアの専門分化
～現代社会のニーズに応える必要
がある～**

第13回年次大会長 榎本 稔

第2次大戦後、日本は不死鳥の如く復興した。神武景気・岩戸景気・東京オリンピック等を経て、高度経済成長を遂げ、経済大国になった。さらにバブル経済となり、豊かな社会における社会病理現象が噴出した。平成期に入り、バブル崩壊とともにデプレッション（経済的には不景気、社会心理的にはうつ病）の時代に陥り、自信を喪失し、先行き不透明の霧の中に、日本社会は迷い込んでしまったのである。とはいえ、日本の社会は平和で豊かで、治安の良い、安心して生活していける国であるが、多様化した価値観の中でかえって生き甲斐を喪失し、疎外され、空洞化した心を持ち、心のバランスを失ってしまっているのである。物質的には豊かになったがゆえに心の病気が増えてきたといえるのである。

急速な社会変動とともに、精神医療も大きく変化してきている。

かつては統合失調症中心の、入院治療中心の精神医療であったが、現代の疾病構造は大きく変わり、外来通院治療、デイケア治療へと転換をとげてきている。

統合失調症も定型例から境界例・人格障害・行動障害型へと推移してきている。さらにさまざまなタイプのうつ病や神経症の病態像が増えてきた。そして子ども・思春期・青年期と老年期の相談が増加し、それぞれの患者が増えてきている。最近の傾向として、不安と抑うつ傾向、強迫的傾向、自己愛的傾向の主訴・相談が増え、その結果、アディクションの精神病理としてのアルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存症、家族依存症（引きこもりとニート）、摂食障害、児童虐待やDV、

セックス依存症（恋愛依存症）や痴漢（性犯罪）、自殺願望等々の受診が目立って増えてきた。

そして、人間関係の葛藤（会社内、夫婦間、異性間等）を自分で解決できなくなった人々の「人生相談」も増加してきている。現代社会の（光と）影の部分が大きくクローズアップされてきており、現代社会のニーズに応えるべく、その受け皿（治療）としての様々なデイナイトケア治療が必要となってきた。

第13回大会のメインテーマは「デイケアの専門分化～現代社会のニーズに応える必要がある～」である。第1日目は大会長講演後、渡辺俊之先生に「高齢者の家族」を、寺田善弘先生に「精神科臨床におけるチームワーク」を教育講演していただく。記念講演は作家で精神科医である帯木蓬生先生に「日薬と目薬そしてnegative capability」というユニークなテーマで講演していただく。メインシンポジウムは「現代社会のニーズに応える必要がある」のテーマで、池淵恵美、大島正浩、五十嵐良雄、城田晴夫の各先生からデイケアの現状と展望について幅広く論議を展開していただく。

第2日目は多くの多彩な分科会を同時進行で開催する。「統合失調症の就労支援」「大学病院、保健所、精神病院、クリニックのデイケア」「単身高齢者の地域での支え方」「認知症家族へのアプローチ」「アルコール依存症のデイケア」「薬物依存症ことはじめ」「ギャンブル依存症の諸問題」「うつ・復職デイケア」「思春期のデイケア」「デイケアにおける発達障害の問題」「援助者の燃え尽き」「性犯罪及び性依存症者におけるトリートメントについて」。一般演題発表は数多く応募があったが、厳選して36題にしぼった。

今大会が、社会・経済・福祉・精神医療の変動の中で、デイケア実践の新しい方向性を見出し、成長・発展していく礎となることを期待したい。

（医療法人社団榎本 榎本クリニック）

日本デイケア学会研修会のご案内

栗原 毅

今年のデイケア学会大会の翌日の9月21日（日）に、学会の研修会を企画しました。テーマは①デイケアプログラムにおける創意・工夫と、②デイケアにおけるチームワークです。参加を希望される方はどちらかのテーマを選んで申し込んで下さい。

プログラムの工夫というと「新しいプログラムの導入」ということが考えられがちで、もちろんそれも意味のあることには違いありませんが、従来からデイケアの基本的なプログラムと考えられてきたスポーツ・料理・創作活動・話し合い・外出等の活動においても、その創意工夫によってこれまで以上に利用者の参加が促され活気が増す、ということは多々あります。一例をあげれば、東京都ではバレーボールに替わってソフトバレーボールが盛んですが、このようにボールを替えただけで参加者は増えました。また、スポーツの時間に競技だけでなくストレッチや柔軟体操を織り込めば、球技などが苦手な人でも参加できる場面がつくれます。

また、デイケア活動において多職種間のチームワークが大切であることは当たり前のようになっていますが、実際には必ずしもスムーズに行えていない所も少なからずあるのではないのでしょうか。一人のスタッフの意見が強く違う意見が出しにくいとか、特定の人に仕事が集まっているがそこへの配慮や適切な役割分担ができないとか、みんな記録ばかり書いていて話し合おうという雰囲気がないとか、各スタッフが担当している利用者のことについて別のスタッフが意見を言いにくいとか、他にもまだまだありそうです。そういう個々の現場の悩みを、丁寧に考え、話し合っていくことが大切です。

今回の研修では、各テーマ30分ずつ企画者が話題提供し、残りの時間は参加者同士の意見交換を予定しています。お互いの困っていることや工夫していることを自由に話し合うことの中から参考になる気づきをもらい、今後のデイケア実践にむけてのヒントや手がかりを見つけ合えるような会にしたいと考えています。ご参加をお待ちしています。

（日本デイケア学会研修委員会）

自主企画 「精神科デイケアならできる10のこと」

百田 功¹⁾ 山崎勢津子¹⁾ 河合英紀²⁾

みっちり2日間のデイケア年次大会でお疲れの皆様にも、もうひとがんばり、いや、一服の清涼剤、いやいや、ストレス解消・カタルシス、というわけでもないですが、もう少し現場寄りの話を、自主企画として、研修会と同時刻・同場所で立ち上げることにしました。研修会の趣旨と同様、それぞれの施設での体験を分かち合い、よりよい実践に向けて学びあえるような場にしたいと考えていますので、是非多数ご参加下さい。

私達も含め、デイケアの現場に従事しているスタッフが実際求めているものは何なのかを考えてゆくと、「ACT」、「専門分化」、「就労支援」、「自立支援医療」といったような最新トピックスに関する知識がまず一つ、それともう一つは「現場の実際」とでもいったような日々のデイケア運営上の困りごとや悩みを忌憚なく話し合える場であるように思えます。

「精神科デイケアはいったい何をするところなのか分からない」
「何を目指していけばいいのか方向が見えない」
「病院の中での“デイケアの立ち位置”が見えない」
「デイケアスタッフとしての“自分の立ち位置”がつかみにくい」
「日々の迷いや悶々とした思いを分かち合う相手がいない」
「それらの迷いを解決するべく手にした専門書や学会や研修会で得た知識を現場で活かすにはどうしたらいいのか、途方に暮れてしまう」

そういった思いというのは何も特別なものではないように思います…にもかかわらず、それらを忌憚なく話し合える場や機会、相手がいないというようなことは結構あるように感じられます。

また、現場では、デイケアメンバーがゆるやかに回復していく姿に、こちら側が元気付けられることも多々あり、デイケアならではの関わりの方さを感じる場面もあるのですが、それらを言葉にしようとしてもなかなかうまく表現が見つからず、共有しにくいというのが現状です。

日頃はどこから手をつけていいのかわからず、後回しにしがちなこれらのことについて、この自主企画でざっくばらんに話し、考えるためのヒントを出し合えればと思います。

さらに、これら「最新トピックス」と「現場の実際」との間の距離を埋める試みと、それを通して他の治療法や専門施設と違う「デイケアだからこそできる」ともいえるデイケアの本当の意味での「専門性」について深めることができればと思います。できるだけ多くの皆様に参加していただくため、申し込み・費用は不要とさせていただきます。皆様の積極的な参加をお待ちしています。

（企画・運営：¹⁾ 大阪府 浅香山病院、²⁾ 大阪府 美原病院）

日本デイケア学会第13回年次大会東京大会

大会テーマ

デイケアの専門分化

～現代社会のニーズに応える必要がある～

大会長

榎本 稔 (医療法人社団榎会 榎本クリニック)

大会URL

<http://www.jpccd13.com/>

会 期

平成20年 9月19日(金)・20日(土)

会 場

ホテルメトロポリタン

URL:<http://www.metropolitan.jp/>

〒171-8505 東京都豊島区西池袋1丁目6番1号 TEL(03)3980-1111

プログラム

第1日目 平成20年9月19日(金)

富士の間

夕鶴(2階)

9:00~9:05

開会式

9:05~10:00

大会長講演

「デイケアの専門分化～現代社会のニーズに応える必要がある～」

榎本 稔 (医療法人社団榎会 榎本クリニック)

司会: 弘末 明良 (医療法人社団榎会 榎本クリニック)

10:05~11:05

教育講演Ⅰ

「高齢者の家族の理解と支援」

講師: 渡辺 俊之 (高崎健康福祉大学 教授)

司会: 小野寺 敦志 (認知症介護研究・研修東京センター)

11:10~12:10

教育講演Ⅱ

「精神科臨床における病名と診断

ーより良いチームワークのためにー」

講師: 寺田 善弘 (帝京平成大学)

司会: 城田 晴夫 (帝京平成大学)

11:30~12:50

理事・評議員会

13:00~13:30

総会

13:30~15:00

記念講演

「日薬と目薬そしてnegative capability」

帯木 蓬生 (作家・精神科医・通谷メンタルクリニック)

司会: 榎本 稔 (医療法人社団榎会 榎本クリニック)

15:05~17:30

メインシンポジウム

「現代社会のニーズに応える必要がある」

座長 榎本 稔 (医療法人社団榎会 榎本クリニック)

比嘉 千賀 (ひがメンタルクリニック)

シンポジスト 池淵 恵美 (帝京大学)

大島 正浩 (メンタルクリニック・ダダ)

城田 晴夫 (帝京平成大学)

五十嵐 良雄 (メディカルケア虎ノ門)

18:00~20:00

懇親会 (4階: 桜)

プログラム

第2日目 平成20年9月20日(土)

富士の間A	富士の間B	富士の間C	朝日
9:00~10:45 分科会【統合失調症】 就労支援 座長：城田晴夫 (帝京平成大学) シンポジスト 池田真砂子(根岸病院) 三浦真(障害者在宅雇用支援センター) 中原さとみ(桜ヶ丘記念病院)	9:00~10:45 分科会【思春期】 思春期のデイクア 座長：佐々木一 (佐々木病院) シンポジスト 鈴木俊介(梅ヶ丘病院) 吉澤清美(こどもの国) 羽深大(佐々木病院)	9:00~10:45 分科会【ギャンブル】 ギャンブル依存症の諸問題 座長：大石雅之 (大石クリニック) シンポジスト 町田政明(ホープビル) 田上啓子(ヌジュミ) 須藤泰子(榎本クリニック)	9:00~10:00 一般演題6題 就労支援① 座長：小谷野博 (文京区保健サービスセンター本郷支所)
10:55~12:40 分科会【統合失調症】 大学病院のDCCと保健所のDCCと 精神病院のDCCとクリニックのDCC 座長：池淵恵美 (帝京大学) シンポジスト 古川俊一(東京大学) 窪田彰(クボタクリニック)	10:55~12:40 分科会【薬物依存症】 薬物依存症とははじめ 座長：松本俊彦 (国立精神・神経センター武蔵病院) シンポジスト 小林桜児(梅ヶ丘病院) 今村扶美 (国立精神・神経センター武蔵病院) 田中健児(榎本クリニック)	10:55~12:40 分科会【うつ・復職】 うつ・復職デイクア 座長：五十嵐良雄 (メディカルケア虎ノ門) シンポジスト 横山範(さっぽろ駅前クリニック) 山本真司(横浜ストレスケアクリニック) 有馬秀晃(品川駅前メンタルクリニック) 加藤由希(メディカルケア虎ノ門)	10:10~11:10 一般演題6題 就労支援② 座長：廣原靖巳 (大内病院)
14:00~15:45 分科会【認知症】 単身高齢者の地域での支え方 座長：岩尾眞 (特別養護老人ホームサンライフ) シンポジスト 瀬川勇行(堀船神経科クリニック) 渡辺寛宣(介護老人保健施設旭が丘) 谷口慶子(杉並区地域包括支援センター)	14:00~15:45 分科会【アルコール】 アルコール依存症のデイクア 座長：金杉和夫 (金杉クリニック) シンポジスト 世良守行(慈友クリニック) 石久保亮(うらべ医院) 山本伸江(榎本クリニック)	14:00~15:45 分科会【援助者】 援助者の燃え尽き 座長：斉藤敏晴 (東京国際大学) シンポジスト 岡本陽子(国際医療福祉カレッジ) 富澤宏輔(大阪人間科学大学) 松本珠美(多摩病院)	14:00~15:00 一般演題6題 プログラム実践② 座長：近藤剛毅 (周愛利田クリニック)
15:55~17:40 分科会【認知症】 認知症家族へのアプローチ 座長：小野寺敦志 (認知症介護研究・研修東京センター) シンポジスト 村松啓子(いこいの会) 田所正典(聖マリアンナ医科大学) 鍋田浩(あんしんすこやかセンター)	15:55~17:40 分科会【発達障害】 デイクアにおける 発達障害の問題 座長：大嶋正浩 (メンタルクリニック・ダダ) シンポジスト 斎藤広生(大内病院) 田中哲(梅ヶ丘病院) 宇野洋太(よこはま発達クリニック)	15:55~17:40 特別シンポジウム【性依存】 性犯罪及び性依存症者に おけるトリートメントについて 座長：阿部恵一郎 (創価大学) シンポジスト 西田篤史(法務省矯正局) 綿引久一朗(法務省東京保護観察所) 斎藤卓佳(新大塚榎本クリニック)	15:10~16:10 一般演題6題 メンバーとの関わり 座長：千田弘子 (五和貫江東クリニック)
			16:20~17:20 一般演題6題 地域・家族支援・その他 座長：関根純子 (井の頭病院)

18:00

閉会式

◎日本デイケア学会第13回年次大会参加申し込みについて◎

今回はホームページ上で事前参加申込みを受付ます。
(ホームページ、「申込み/登録」より受付できます)

日本デイケア学会 第13回年次大会
於 東京 ホテルメトロポリタン

デイケアの専門分化
～現代社会のニーズに応える必要がある～

- 大会長挨拶
- 大会概要
- 申込み/登録
- アクセス
- リンク

事前
参加申込みは
平成20年
9月12日(金)
まで

今大会ホームページ <http://www.jpacd13.com/>

事前参加申込みの締切日は、平成20年9月12日(金)までを予定しております。
事前参加申込みをされる方は「TOPページ」→「○申込み/登録」→「参加申し込みのみの方は
こちらをクリックして先へお進みください。」で必要項目をご記入の上、お申込みください。

	学会員	一般	学生
事前申込み	¥7000	¥8000	¥3000
当日参加	¥8000	¥9000	¥4000
懇親会費	¥5000		

※平成20年9月12日までに参加費のお振り込みが確認できない場合、当日参加扱いとなります
のでご注意ください。

※ホームページ上で受付ができない環境の方は大会事務局で対応いたしますのでご相談下さい。

※日本精神神経学会専門医の研修ポイント対象学会です。

取得単位C群:2時間以下10点

2～4時間20点

4時間以上30点

日本デイケア学会第13回年次大会事務局

(お問い合わせはFAXまたはE-Mailにてお願いいたします。)

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-2-5

医療法人社団榎会 榎本クリニック内 担当: 増村

TEL 03-3982-5345 FAX 03-3982-6089

E-mail: dc_gakkai@enomoto-clinic.jp

日本デイケア学会研修会のご案内

日本デイケア学会研修委員会では、2008年度の研修会を以下のように開催することを計画しています。昨年同様、それぞれの施設での体験を分かち合い、よりよい実践に向けて学び合う形の研修にしたいと考えています。

ご存知のように、日本デイケア学会の第13回年次大会は、2008年9月19日(金)・20日(土)に東京で開催されます。研修委員会では、第13回年次大会終了後の9月21日(日)の午前に、委員会主催の研修会を行いたいと考えています。この研修会は学会の研修委員会が行うもので、お問い合わせ等は、年次大会事務局ではなく、学会事務局(エム・シー・ミューズ内)に、お願いいたします。皆様の積極的参加をお待ちしています。

記

研修開催日時:2008年9月21日(日曜)午前9時30分から12時30分まで

テ ー マ :①「デイケア実践における創意・工夫」2グループ

②「チームワークについて」1グループ

* どちらかのテーマを選んで参加するグループ別研修を予定していますが、申し込み人数によって変更の場合もあります。

* 先ず講義を聞き、後半は参加者の日頃の経験と考えを交換する形で、よりよい実践に向けて考察を深めたいと考えています。

講 師 :井上牧子、栗原毅、丹野きみ子、松永宏子

参 加 資 格 :日本デイケア学会員

研 修 費 :ひとり3,000円

定 員 :60名(先着順)

開 催 場 所 :文京区民センター(東京都文京区本郷4-15-14)

研修会のお申し込みは、氏名、連絡先(職場あるいは自宅の住所及び電話番号)を明記の上、FAXかE-mailあるいは郵送にて下記日本デイケア学会事務局までお願いいたします。

日本デイケア学会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷2-25-14第1ライトビル3F

(有)エム・シー・ミューズ内

TEL&FAX:03-3813-6368

E-mail:info@daycare.gr.jp

デイケア 西から東から、北から南から…

デイケアvs 地域活動支援センター

澤 温

精神科デイケアが診療報酬で認められるようになったのは、1974年で、当時は医療的地域サポートのみでなく、福祉的地域サポートも担ってきた。

1999年から地域生活支援センターが制度化され、自立支援法になって地域活動支援センターとなり、相談支援事業などが加わったが、いずれも日中から夕方にかけてのドロップイン機能があるこのドロップイン機能では、何時来ても何時帰ってもよく、中ではブラブラしていてもよいが、集ったメンバーが、自主的にその日のプログラムを立てて協同して何かするなどアクティブな活動することも珍しくないが、自由度はデイケアとは比べものにならない。もしデイケアの方がいいとしたら、「食有り」のデイケアでは食事を提供されること、またいくつかの大都市では自己負担分がゼロというくらいなのだろうか？いいわけをすれば、食事は大事で、メタボ対策もできるし、食事をきちんととれば服薬も「食後服薬として」服薬管理および継続にも繋がるし、必要な人にのみとはいえ、服薬を管理する専門職として看護師がいるのが強みといえよう。

精神科訪問看護が診療報酬で認められるようになったのが1986年で、訪問看護は社会復帰の大きなツールとして稼働している。そして訪問介護ができてからは、訪問看護は医療的な側面に特化してきた。

では、地域活動支援センターができて地域での福祉的地域サポートが整うと、デイケアは、訪問看護がそうであったように、医療的地域サポートにどの様に特化するかが大問題である。

筆者が昔調べたデータでは、デイケアをするとする前に比べて、入院期間も入院回数も約半分になる。食事をつなぐというのは、冗談のように言ったが服薬の確実性をあげ再発予防には貢献する。しかしそれくらいのことは地域活動支援センターでもしているといわれたら、デイケアはさらに戦略をsophisticateして、それでいて医療くさくて嫌われないような、まさにadherenceの高いデイケアにしなければいけないだろう。2年前、重度認知症デイケアは介護保険にといわれたがさうとうじて医療保険に残った。今、厚生労働省はデイケアをどうしようかと照準を合わせてきている。例えば週5回と3回で効果が変わらないとなるとさらに回数制限を加えてくるだろう。医療保険でなければできないと主張できなければ介護保険に少なくとも65歳以上の人は流れていく。これはかなり緊急の課題であると思う。

(大阪府 さわ病院)

輝け、デイケア

佐々木 裕光

福岡市内から車で30分、海も山も近い自然豊かな土地にひととき目を引く大きな門がある。この「薬医門」をくぐると3万坪の広大な敷地に松・ケヤキ・ツツジ・桜をはじめ、緑が一面に広がっている。

そんな自然溢れる環境の当院デイケアは1975年に日本で最初の認可を受け、1992年には2つ目の大規模デイケアが、そして1995年にはデイナイトケアが開設された。

デイケアへのニーズは時代と共に変わる。統合失調症を中心に33年間取り組んできた当院にも多くの課題がある。例えば長期通所者のマンネリズムや高齢化、新しく入所した患者との棲み分け、導入の仕方などである。病棟に機能分化が必要のようにデイケアにも機能分化が必要となってきた。薬物療法も新規抗精神病薬が中心となり、急性期治療病棟が当たり前となった今、統合失調症の治療経過や状態像にも変化がみられ、デイケアでの対応も以前とは変わってきている。

当院ではデイケアを4つに分け運営していたのだが、昨年3月にデイナイトケアも含めて一本化し、活動プログラムの見直しとスタッフ役割の見直しを行った。法定員での運営には限界があり、数名の医師やPSWにも応援してもらい音楽療法士や体育療法士も配置した。より幅広く、個別ニーズを重視できるようになったと思っている。プログラムの詳細は別の機会に述べることにするが、デイケアの雰囲気は明らかに変わった。患者さんも変わったが何よりもスタッフが変わった。新しい試み、研究発表などを自発的に行ってくる。元々、頑張るスタッフだったが、さらに自信を持ったようだ。

デイケア機能の見直しは絶えず必要だが、医療の質はスタッフ次第である。医療経営の難しい時代はスタッフも重圧を感じやすい。その重圧から解放され患者中心に頑張れる時、スタッフは実に生き生きと輝いてくる。

デイケアは地域リハビリの中核であることは間違いないが、社会資源の一つに過ぎないとの認識も必要である。「患者の囲いこみ」をせず、訪問看護や地域活動支援センター、市町村、ハローワーク、作業所などとの連携を大事にしながら、患者さんがその人らしく生活できるような援助を期待したい。

患者さんにも、スタッフにも地域にも輝いてほしい。

(福岡県 福岡病院)

日本デイケア学会役員

理事長: 柏木 昭, 副理事長: 小林暉佳, 齋藤和子, 監事: 弘末明良

理事: 浅野弘毅, 池田良一, 岩尾 貢, 榎本 稔, 大丸 幸, 荻澤健志, 小野寺敦志, 吉川武彦, 窪田 彰, 佐々木千鶴子, 高林健示, 西村良二, 松永宏子(事務局長), 松田ひろし, 良田麗明

評議員: 五十音順

浅井邦彦(DR千葉), 浅野弘毅(DR宮城), 池田良一(DR千葉), 岩尾 貢(PSW石川), 内田洋一(OTR茨城), 榎本 稔(DR東京), 大丸 幸(OT福岡), 荻澤健志(CP 東京), 尾崎多香子(PSW東京), 小野寺敦志(CP東京), 加護野洋二(DR大阪), 柏木 昭(PSW埼玉), 川副泰成(DR千葉), 吉川武彦(DR東京), 窪田 彰(DR東京), 熊倉徹雄(DR福島), 栗原活雄(PSW東京), 栗原 毅(CP千葉), 小杉好弘(DR大阪), 小林暉佳(DR東京), 小谷野博(CP東京), 齋藤和子(NS千葉), 桜庭 繁(NS京都), 佐々木千鶴子(CP宮城), 高江州義英(DR沖縄), 高林健示(CP東京), 田中英樹(PSW東京), 津尾儀典(DR岡山), 長瀬輝誼(DR東京), 西園昌久(DR福岡), 西村良二(DR福岡), 原 敬造(DR宮城), 平川淳一(DR東京), 平田豊明(DR千葉), 弘末明良(DR東京), 藤井康男(DR山梨), 穂積 登(DR東京), 堀内久美子(OT東京), 松田孝治(DR大阪), 松田ひろし(DR新潟), 松永宏子(PSW東京), 三浦 彌(DR北海道), 山中恵子(OT東京), 良田麗明(DR東京)

委員会

組織委員会: 弘末明良(委員長), 榎本 稔, 齋藤和子, 松永宏子(事務局)

広報委員会: 榎本 稔(委員長), 栗原活雄, 小谷野博, 坂田直之, 佐々木智子, 高林健示, 松永宏子(事務局)

研修委員会: 松永宏子(委員長), 井上牧子, 川副泰成, 栗原 毅, 内藤 清

編集委員会: 浅野弘毅(委員長), 池田良一, 大沼幸子, 荻澤健志, 小野寺敦志, 川副泰成, 齋藤敏靖, 山中恵子, 松永宏子(事務局)
(査読委員: 岩下 寛, 是恒正達, 佐々木千鶴子, 田中英樹, 松田ひろし)

調査研究委員会: 小林暉佳(委員長), 小野寺敦志, 窪田 彰, 長瀬輝誼, 平川淳一, 松永宏子(事務局)

日本デイケア学会入会申込みについて

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更され、現在約1,000名の会員がおり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めております。

1. 入会申込書 入会申込書、入会案内、会則、および郵便振込用紙をお送りいたしますので、下記事務局までご連絡ください。

2. 入会金および年会費

正 会 員: 入会金1,000円 + 年会費 8,000円 = 9,000円

団体会員: 3名までは、入会金 5,000円 + 年会費 20,000円 = 25,000円

(3名を越えるときは、1名につき年会費 5,000円を加算してください)

3. 資格 (会則の一部を引用します)

正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。

団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。

4. 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-25-14 第1ライトビル3F (有)エム・シー・ミューズ内
日本デイケア学会事務局

TEL&FAX: 03-3813-6368 E-mail: info@daycare.gr.jp URL: http://www.daycare.gr.jp

キリトリ線 (ご記入いただき、郵送あるいはFAXで事務局までお送り下さい。)

入会申込書 (正会員用)

申込日 平成 年 月 日

氏名	フリガナ	性別	男・女	生年月日	T・S H	年	月	日
職種	所属先名称 (勤務先)							
所属先 所在地	〒			電話番号	()			

自主企画「精神科デイケアならできる 10 のこと」の御案内

日時:2008年9月21日(日) 午前9時30分~12時30分

場所:文京区 区民センター

住所 東京都文京区本郷 4-15-14

電話 TEL 03(3814)6731

交通手段:地下鉄丸の内線 後楽園駅から徒歩3分

都営三田線 春日駅から徒歩0分(A2出口直上)

JR 中央線 水道橋駅より徒歩10分

学会 & 研修当日の連絡先: 携帯電話 090-8169-5935

ニュースレター本文中では申し込み不要と記しましたが、会場の大きさに限りがありますので、申し込まれた方に優先的に参加していただこうと思います。また、希望者多数の場合はダイケア業務に従事している方を優先とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

自主企画に参加される方は、下記までお申込みいただくか、学会当日、受付横に簡単な申込用紙を設置しますので、所属と氏名を記入してお申し込みください。

なお、この企画に関するお問合せは、下記までお願いします。

【申し込み＆問い合わせ先】

浅香山病院A館デイケア 電話&FAX 072-222-9404(デイケア直通)

担当:百田(ももた)、山崎(やまさき)

メール adc@asakayama.or.jp

【会場案内】

